

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.184

2015/03/29

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

新しい調査研究成果報告に身引き締まる



山門水源の森2014報告会(2015/3/22)於:西浅井公民館小ホール

3月22日(日)「山門水源の森 2014 報告会」が開催されました。藤井勇治長浜市長はじめ地域住民・県下の研究・保護団体の参加を得て充実した報告会になりました。報告は下記の12件が行われました。

1. 2014年の山門水源の森保全活動・ 2. 山門水源の森の積雪量について・ 3. センサーカメラがとらえた動物の記録・ 4. 希少種保全のためのシカ狩猟捕獲の問題点・ 5. 山門水源の森のギフチョウは絶滅したか?・ 6. ユキバツツバキ4,804本数えました・ 7. 環境教育実践報告(永原小学校)・ 8. 環境教育実践報告(西浅井中学校)・ 9. 塩津地域に飛来したコウノトリ・10. カエンタケを食べる!?-毒キノコを食べる生きものたち-・11. 山門水源の森の樹木といにしへの歴史Vーウワミズザクラとヤブコウジー・12. 山門水源の森の植物を草木染

いずれの報告も本会にとっては重要な基本資料の蓄積となりました。特に若い会員の発表は、参加者の注目を浴び、身を乗り出してPPT画像を見ておられる光景が印象的でした。会員の発表は、調査・研究を主目的にした活動では無く、保全活動の傍らでまとめられたものであり、その労苦を考えると、その報告が一層重たく感じられました。一方で永原小学校・西浅井中学校の「山門水源の森」での取り組みは年々深みが増し、児童生徒の「山門水源の森」に対する観方に変化が生じていると報告から感じ取れ、本会が目指す「次の世代に引き継ぐ」という目的に近づいているのを嬉しく思いました。



中央湿原の防獣ネット・波板の設置(15/03/21)

「次の世代に引き継ぐ」ことを最大の目標にしているのですが、その「引き継ぐ」対象である「森の生物多様性」を保全するためには、季節を問わず次々と保全作業を続けてゆく必要があります。自然は待つてくれませんので、季節の変化を先取りして保全活動をしてゆく必要があります。雪融けまでは、ヒノキの枝打ち・雪融けの程度を見計らって防獣対策の諸作業を日々行いました。3月に入ってから防獣ネット・波板の設置の必要な部分は、21・22日の大勢の保全作業参加で8割方完了しました。引き続き雪融け後の観察コースの整備がこれから4月中旬までの主な作業となります。森林キーパーは3/10で契約期限となり、後は会員のみで実施することになります。スケジュール表を見て参加をお願いします。

積雪期・融雪期の保全作業



枯死アカマツ伐採処理(15/02/23)



積雪を除去してネット張り(15/03/05)



中央湿原防獣作業(15/03/21)

積雪期・融雪期を問わず保全作業は待ったなしです。湿原際の枯死アカマツは湿原植生を傷つけないことと、運搬を考えて残雪の多い時期に実施しました。



喰われたカラスザンショウ(15/03/11)

今冬の積雪期は何故かシカ・イノシシが森から姿を消しました(昨年までは積雪を掘り返していた)が、雪融けを待って再来することを考え除雪をしながら防獣ネットを設置しました。それにもかかわらず天然更新試験地にはシカが侵入しカラスザンショウの芽を喰われました。湿原では連日防獣ネット・波板設置を行い 3/28 でこの作業は一区切りつきました。後は頻繁なネット巡視が待ち構えています。3/27 には、西浅井中学陸上部の生徒諸君 11 名が保全作業に来てくれました。

春の兆し次々と……

バイカオウレンは今開花のピーク・ユキバツバキは徐々に開花が広がっています。クロモジ・キンキマメザクラが咲きはじめました。



ユキバツバキ(15/03/25)



クロモジ(15/03/25)



バイカオウレン(15/03/25)

残雪が僅かに残った森に今年の団体の第一弾として「守山市緑の少年団」が訪れました。時折小雪がちらつく中でしたが、親子で早春の森を楽しんでもらいました。



守山市緑の少年団(15/03/25)



森林キーパー送別会を兼ねた懇親会(15/03/21)